読書

県図書館に行こう!!

こんな情報が待っている

「美濃奇観」明治に発刊の観光ガイド

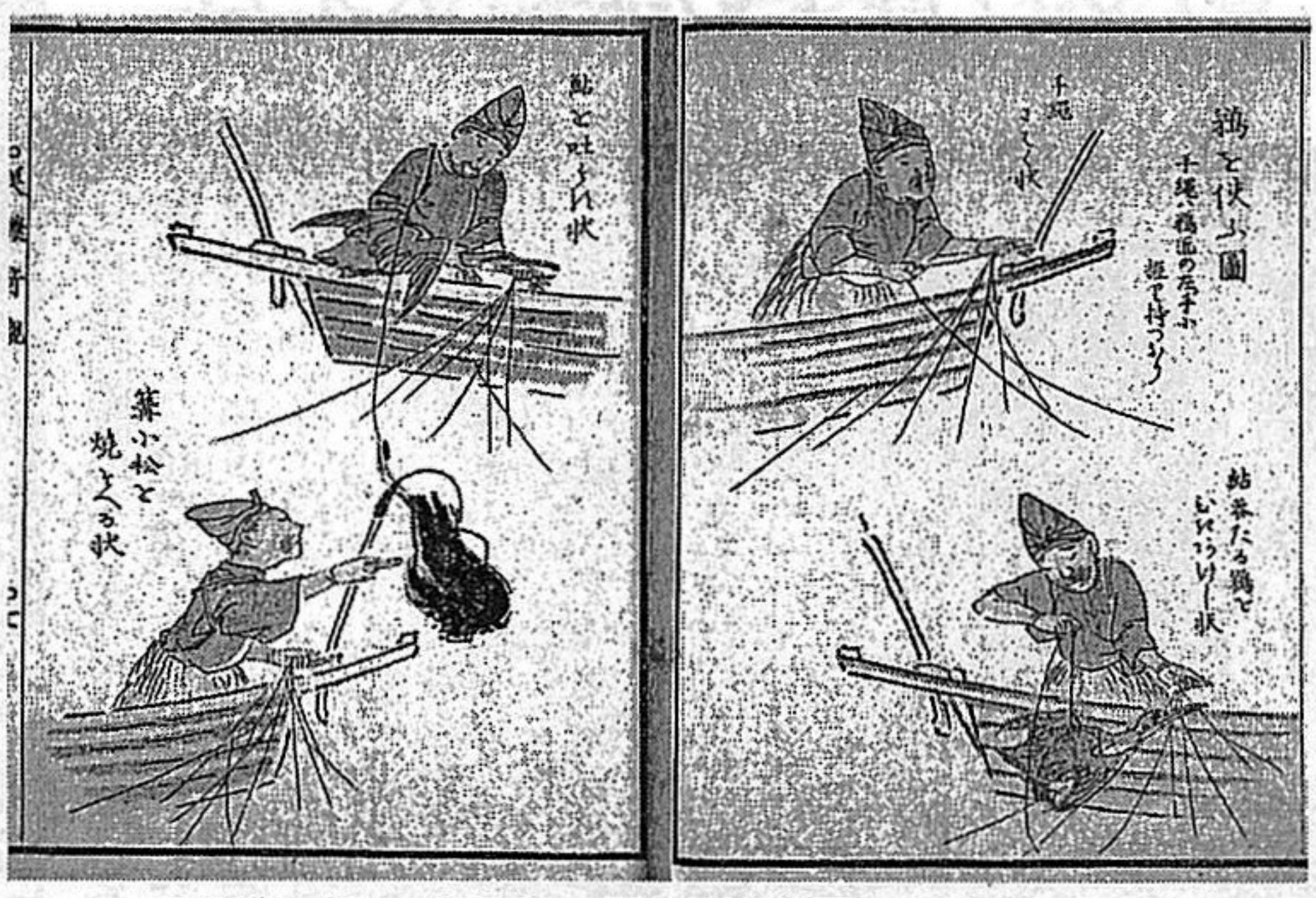
BOOK REVIEW

県図書館の電子化資料のうち『美濃奇観』は、一八八〇（明治十三）年に発行された美濃地方の観光ガイドである。奇観とは、珍しい眺め、優れた景色のことで、本書は古来より名高い美濃の景勝地を紹介している。

取り上げられているのは、長良川の鵜飼、金華古城、養老の滝周辺。多色刷りの絵（池田崇広画）と優美で趣のある文章が旅情を誘う美しい観光案内である。

景観の描写にはゆかりの和歌や説話が多数織り込まれており、いにしえの人々の思いが読者に深い感興を与えるよう工夫されている。古くは万葉の歌人から、一条兼良や本居宣長らまで多くの歌人が詠んだ和歌が取り上げられ、また、鮎鮨（すし）や養老菊水酒などの食についても紹介されており、「近来は外国人も賞美」していると美濃の名物を誇っている。

本書は鵜飼についての記述が多い。概説に始まり鵜や道具、鵜の操り方が図を交えて詳細に説明されている。手縄さばきや鮎を吐かせる動きを描いた「鵜を使ふ図」は特徴的な動きがよく表現されている。また、鵜が鮎をのみ込む場面をとらえた図はとても愛らしい。



『美濃奇観』のうち、「鵜を使ふ図」のあるページ

七八年に明治天皇による長良川鵜飼の観覧があった。その二年後に出た本書の序文にその時の模様が記されている。本書出版を機に鵜飼はより知られるようになり、鵜飼観光の大衆化が進んだ。

作者の三浦千春（号萩園）＝一八二八―一九〇三年＝は名古屋生まれ。尾張藩の地役人を勤め、維新後は岐阜県の官吏となり、七九年に初代の厚見・各務・方県の郡長となり、晩年は東京で過ごした。租税沿革を概説した『租調考』のほか、歌集、随筆、紀行文を著わした国学者・文人でもある。本書を含めた著作が当館所蔵の『萩園遺稿』（一九〇六年）にまとめられている。

―岐阜新聞社提供―